

深川東京

fukagawa tokyo modankan news

モダン館だより

共催

噺 + 話

5月30日(火)14:00～ (開場13:30)

おきがる講座と落語会モダン亭のコラボ



柳家小志ん「宿屋の仇討」

+ 龍澤潤「演題にちなんだ話」

予約・当日 1,500円 定員 20名

※5月16日(火)10時から受付開始



※当館の催し物のご予約は 10時から お電話 03-5639-1776 まで

5月のカレンダー

催し物の詳細は2面をご覧ください

月	火	水	木	金	土	日
1 休館日	2 	3	4	5 	6	7
8 休館日	9 おきがる講座	10	11 キッチン 松ぼっくり 営業日	12	13	14
15 休館日	16	17	18	19	20	21
22 休館日	23	24	25	26 おきがる講座	27 圓橘の会	28
29 休館日	30 噺 + 話	31				

開館時間 10:00-18:00 (金・土曜日は19:00まで)

お客様へのお願い ・体調がすぐれない方は、ご遠慮ください ・手洗いと手指消毒にご協力をお願いします
・催し物にご参加されるお客様には、氏名・連絡先等を確認させていただく場合がございます

5月の催し

給食の懐かしい味！

キッチン 松ぼっくり

5月11日(木) 11:45～14:00

たけのご飯

鶏肉のリンゴソースかけ

じゃがいもの炒め物
おひたし

750 円

揚げパンは1個50円



写真はイメージです

※11:15から整理券を配布します ※完売次第、閉店いたします
※ご予約はできません ※メニューを一部変更する場合があります

共催

圓橘の会

5月27日(土) 15:00～

(開場14:30)

三遊亭圓橘・萬丸

「三人旅(上・下)」 “家にじっとしている若者は野暮な知恵しかもてない”
シェイクスピア『ヴェローナの二紳士』

らいみまい
岡本綺堂三浦老人昔話「雷見舞」

“マムシが這い出るのはきまってるうらかな日だ”
シェイクスピア『ジュリアス・シーザー』

予約 2,500円 当日 2,800円 定員 50名

※5月16日(火) 10時から受付開始



主催

おきがる講座

江東区の歴史を学ぶ講座です

5月9日(火) 14:00～15:30

「渋沢栄一ゆかりの事業2 造船業と石川島造船所」**再** 2022年5月と同内容

※4月25日(火) 10時から電話で受付予約



5月26日(金) 14:00～15:30

「飯島喜左衛門」 ※5月11日(木) 10時から電話で受付予約



受講料：各500円 定員：各回30名(要予約) 講師：龍澤潤(深川東京モダン館)

※当館の催し物のご予約は 10時から お電話 03-5639-1776 まで

サードウェーブ清澄白河 寺町、木の町、カフェの町



最近、休日ともなると、若い人々で賑わう清澄白河。特に長い行列ができていのは、「ブルーボトルコーヒー」、「オールプレス・エスプレッソ」、そして「アライズ」。清澄白河は、「サードウェーブコーヒーの聖地」として崇められており、この3軒が「サードウェーブコーヒー」を代表する店なのだそう。ふーん、とうなずきながら、疑問が浮かぶ。そもそも、「サードウェーブコーヒー」って、ナニ？

で、ネットやコーヒー専門書などを調べてみた。理解したのは、アメリカにおけるコーヒーブームの第3波という意味だということ。昨今聞かれるようになった言葉と思い込んでいたが、アメリカでは、この流行、1990年代から始まっているのだという。

ちなみに、ファーストウェーブは、19世紀後半から1960年代、インスタントコーヒーの普及により急速に家庭に広まったブーム。1970～1990年にかけてのスターバックスコーヒーやタリーズに代表されるシアトル系コーヒーショップがもたらした深入りコーヒーブームが、セカンドウェーブ。エスプレッソをベースにしたカフェラテなどフレーバーコーヒーが人気を博した。

そして、コーヒーの種子から1杯のコーヒーに至るまでの過程が明確で、コーヒー豆の価値を正に認めようとするのがサードウェーブコーヒー。コーヒー豆本来の個性を重視するので、浅煎りが多く見られ、適切な焙煎、抽出も必須なのだ。なるほど。だから、サードウェーブコーヒーのためには、大きな焙煎機を設置できる大きな店舗が必要なのわけか。さらには、焙煎機から排出される排煙ダクトの設置が容易なことも大切。材木や物資を貯蔵していた大きな空き倉庫はうってつけ。「ブルーボトル」も「オールプレス・エスプレッソ」も、そんな空き倉庫を改造した店だ。

また、清澄白河界隈には、寺社や河川が多く、風の通りがよい。焙煎時の煙や臭気を逃しやすい地域であったことも、清澄白河がサードウェーブコーヒーに選ばれた理由のひとつらしい。

考えてみれば、清澄白河の賑わいは、明暦の大火前後にできた寺町から始まった。そして、木場ができ、堀ができ、木材を貯蔵するための倉庫・大名の蔵屋敷ができ、明治以降も三菱・三井・澁澤などの倉庫で賑わう。しかし、近年、新木場移転をきっかけにそんな清澄白河の賑わいに翳りが見えた……。

それが一転、使われていない倉庫がリノベでおしゃれに変身。コーヒー店だけじゃない。アパレルショップにギャラリー、サイクルショップ……。空き倉庫を利用した店は意外なほど多い。

過去を生かすことで新たな賑わいが生まれた清澄白河。この街自体、寺町、木の町を経て、カフェの町としてのサードウェーブを迎えているといっても、いいんじゃないのかなあ。

こんな清澄白河の本格的コーヒー店やおしゃれなカフェ、ベーカリーなどを巡るイベント「清澄白河サードウェーブツアー 寺町、木の町、カフェの町」を、6月1～3日に行います。詳しくは、こうとう区報4月21日号をチェックしてください。



(文と写真 江東区文化観光ガイド 森本美奈子)

深川東京モダン館では江東区文化観光ガイドによる館内のご案内（10時～16時）およびご希望によりモダン館周辺のまちあるきツアー（1時間程度、11時・14時出発）を行っています。※諸事情によりガイド不在の場合もあります。

貸会議室・多目的スペース

深川東京モダン館では2階の多目的スペースと会議室をお貸し出ししています。ミーティングやイベントを行うスペースなどにご利用ください。

◆会議室 (20㎡)

利用日時：開館日時 利用例：社内ミーティング、商談、お花・書道・語学の教室等

◆多目的スペース (80㎡)

利用日時：開館日時 利用例：展示、イベント、社内研修、演劇の公演、講演会、教室等



多目的スペース



会議室

※料金、ご予約（ご利用日の半年前から受付）詳細については、お電話またはメールにてお問い合わせ下さい。

※スクリーン、プロジェクター、マイクなど機器類もご利用いただけますので、ご相談ください。

ガイドブック・お土産品

深川東京モダン館1階では、まちあるきに役立つガイドブックや江東区の文化財ガイドなどを販売しています。

- ・『江東区の文化財』各地域
- ・江東区観光キャラクター
コトミちゃんグッズ各種
(タオルハンカチ ステンレスボトル等)
- ・江東区の名所を描いた絵はがき
- ・もくレース
- ・深川めしの素
- ・ちくま味噌 甘酒
- ・はちみつ
- ・ゲイシャコーヒー
- ・Tシャツ
- ・キーホルダー 等

江東区の観光キャラクター
コトミちゃん



タオルハンカチ
全6種類
各600円(税込)

百圓珈琲

1F カウンターでは 100 円のコーヒーをご提供しております。

ホットコーヒー「小樽」「ベイキャメル」「モダン館ブレンド」(しつかり・すっきり)そして季節限定の「冷やし」の4種類をご用意しております。

まちあるきの休憩時や会社のお昼休み中の一服にどうぞ。



開館日および開館時間

10:00-18:00 (金・土曜日は19:00まで)

休館日:月曜日

(月曜日が祝日の場合、翌火曜日が休館となります)



「深川東京モダン館だより」第120号(2023年4月20日)

発行 (一社)江東区観光協会 深川東京モダン館

〒135-0048 東京都江東区門前仲町1-19-15

TEL 03-5639-1776 FAX 03-5620-1632

Mail info@fukagawatokyo.com

ホームページ www.fukagawatokyo.com

